

第3回勉強会『仲間のみつけ方・つながり方』

～「福岡テンジン大学」の事例から学ぶ 人と人、人と街、人と社会を繋ぐ関係性のデザイン～

3回目となる勉強会では、「福岡テンジン大学」の代表岩永真一氏を講師にお迎えし、福岡テンジン大学の取組み例を参考に、計21名の参加者とともに、人と人が学びあいコミュニケーションの輪が広がっていく仕組みについて学びました。

開催概要

■日時：2019.05.29（水）18:30～20:30

■場所：大野城まどかぴあ 301 会議室

■当日のプログラム

18:30 開会

◇趣旨説明

◇岩永真一氏によるレクチャー

◇会場との意見交換

◇閉会

20:30 終了

■講師：岩永 真一氏

福岡テンジン大学（学長）／グリーンバード北九州（代表）／WeLove 天神協議会コミュニティ WG（リーダー）／北九州市立大学（特別講師）／九州産業大学（非常勤講師）／夜明の里カメミツ（社外社員）／スペース R デザイン（コミュニケーション・デザイン室）

■司会：吉田まりえ氏

九州の暮らし創造研究所 代表

コミュニティは” お金ではない力学” を使う



「福岡テンジン大学」の取組みを事例として、コミュニティの作り方についてレクチャーしていただきました。新しい” なにか” と繋ぎあわせること、新しい視点・情報で気づきを生むこと、多様な人脈で企画を生むことが得意だと話す岩永さん。「福岡テンジン大学」では、福岡のまちの人たちが、先生となり授業を行います。街を消費するのではなく、つくる側、生産する側に立てる人を増やし、人と街の関係性をデザインすることで、人づくりを通じてまちづ

くりをしているそうです。「事業や商売では、お金という力学が使えますが、コミュニティではお金ではない力学を使います」。お金ではない力学とは？ビジョンやミッションを共有すること、仕組み化すること、アウトプットをうむことで、お金ではない力学が働き、人と人がつながっていくということを教えていただきました。また、「広がるコミュニティの7要素」として、①ワクワクを感じる、②入口が複数ある、③コミュニケーションがデザインされている、④体験と言語化がある、⑤役割がある、⑥階段がある（やるほど成長する）、⑦社会性あるビジョンがある、これらのことが大事だそうです。コミュニティを広げるには、こうしたいくつかのコツがあり、コミュニティは対話を通じて育まれていくことを学びました。

意見交換を行い、議論を深めました



岩永さんのレクチャーを受け、参加者同士でグループディスカッションを行い、岩永さんの話題提供に対して感じたことや大野城でのまちづくりについて自由に意見を交換し、参加者同士で熱い思いを共有しながら考えを深めていきました。自走するタイミングの見極めは？SNSではなくアナログで発信することにこだわる理由は？アウトプットの練習はどのようにしたらよいか？などの質問を岩永さんにぶつけました。



▲ 全体での意見交換の様子

当日の意見交換

「勉強会で感じたこと」

- アウトプットの大事さ
- タイトルについてもっと練って見てもらうよう頑張ろうと思った。
- わくわく感のある勉強会が必要
- ターゲットになりきってみたい、化けてみたいという気持ちになった。
- すごく響いたのが、タイトル付けなど

事後アンケートの意見

「新たに生まれた疑問」

- ワクワクするシステム
- アイデアの訓練
- 高架下のイメージ作り(外からどんなイメージを持たれたいかなど)
- タイトルの付け方とこれまでのケースも含めてもっと知りたいです。
- フィルターをかける方が良いのか、悪いのか